

人の一生は重き荷
を負ふて遠き道
を行くが如し
急ぐ可らず

明治四十四年元月二十五日
 本紙 一枚金二錢七
 定價 十日前金九錢六
 金圓八十錢六
 月曜日及大祭日の翌日以休刊
 廣告 五錢
 料金 五十錢
 字十七號 諸報刊行
 印 刷 人 松 久 神 久 岡 太
 發行所 京城新報社
 京城西番西小門通 電話六六三

民團議員改選就

選に就いての意見ですが、事實は此の間
長の臨時會の時に意見を述べ、今う
の語でしたが此の十日頃に發表す
からといふので本日の選舉に關する私
を立議を決めては居りませぬが、怒の
で、一寸思ひ付いたことだけ申
上げます。此の東郷の員は、一体に眞面
の人ばかりで一向、眞面なことで樂
もしやうと云ふ人は少いやうです。私
も本年辭退するといふことになす
で、何だか妙に物けるやうにも思はれ
しまいか、或いはやうに高く止まるやうに
思はれやうかと考へましたから、願
入るの間に、決して無禮な話じや
ない此の間から、或る處でなければ
分の二十五萬圓は、總督府から補助して
賣したと斷した、其位なら、阿とか
賣、さうもないのだとの話でした。遂に、
區の改正は捨て置くことの出来た問題
です。今申す通り、本町の道路は是非と
先鞭に而して急遽に着手する、其の
ならぬと、惜じて居ります。其の分
圓を擴張すること、今太神宮を立派に新
築すること等もありましたが、先づ昔川氏
の意見にもありましたが、公會堂學校
の建つては種々意見がありましたが、今
日は是れ、女に於いて頂きますやう云々、

●朝鮮の漁業

各漁業會

第五十一回 西尾鱗立

變廣



主「夫はなりました。女、其處がね情
けで御座ひます……」主「女は、
は何處まで出な……」女「江戸の上
の上月へ参ります。夫が上月に居りま
すから夫を尋ねて参ります」と、此處を
ば二階に居て知らず「古橋の助が聞
きました。又九重殿、元も古橋の助で
下と見えます。未だ年若き婦人に愛
嬌あるものでありますから九重殿は不
忍に思召して、何う致さるゝ邊として
討て遣りたいが、九」女「……」と仰
して、九重殿「古橋の助も然ば左様だ
して治ませうと、亭主を呼て其條を話
す」と、主「お勘さん方が引受なら治
さす」女「……」と、妻は元治花に居りまして、た、候
しなから近女や浮舟と申ししますもの
兵衛の助とは深く云ひ嫌したもので御
座ひます。三年を願ますれば播州の上月
へ来ると云ふ事、承知致しまして、依
て親方を欠落を致しまして参りました
九重殿も同じ思ひで御座ひますから、
お父を思ひやりまして思はず腰を流
す、稍うして古橋の助の御覽談はし
九世には似たるものもあるのかと
思ふ。九重殿も湯にあつて片頬に笑を含
み、腰が元はへ成らせたる其跡、し
り御家老の妻が尋ねて参ると云ふも
不思議の縁も御座ひますもの、宿世

廣 告
 生徒募集廣告
 本所第五回生徒募集入所志願者へ來
 る二月五日(生徒)入學會場へ左記
 期日ニ來所交納ニ可也
 試驗科目 國語、算術、常識、英語、
 理科、理科及小數分數、讀漢文
 明治四十四年一月
 總督府工業傳習所


右特別安價 製造業仕職間 陸續御用
 金被下 上候 申下 候
 本館早速 町新市街京
 水龍頭
 其 他 農 具 一 式
 唐 箕 石 子 式
 京 城 金 町 六 十 三 統 千 戶
 移 轉 廣 告
 日 實 業 界 期 總 支 社
 電 話 一 五 〇 四 番 小 谷 忠 治 啟
 京 畿 中 都 區 吾 賀 七 五 統 千 四 戶
 市 川 祐 雄 推
 〇 貸 家 廣 告
 武 藏 一 金 庫 六 二 三 專 用 水 道 廣 設
 帝 話 的 便 向 々 停 車 場 近 引 朝 市 場 一 丁 目
 至 輕 便 車 向 々 停 車 場 近 引 朝 市 場 一 丁 目
 米 倉 町 和 樂 園 下
 病 氣 保 養 的 爲 的 旅

美術
 實用品各種
 肥七
 各製產地
 新荷着
 店商榮陶
 番三三番鐵道の橋株 番三三番話
 所捌賣元草煙製官

京都本町壹丁目

標商

最良醬油



登錄

千葉縣銚子町
磯邊元岩崎重次郎

山十印

土地建物礦山株券

<p>市外田畠山林未墾地鐵</p> <p>商品其他擔保に資金す</p>	<p>買入たし</p> <p>田畠、山、金銀、黒鉛礦</p> <p>買入たし</p>	<p>貸家管理の囑托を受く</p> <p>一百町餘の果樹園遊地</p>	<p>小 林 藤 商 店</p>
-------------------------------------	--	-------------------------------------	----------------------------------

五六拾電

町三丁目市明東京

[illegible]

<p>○弊店の特色 ○弊店は第一流仕向の時代代表 ○株式の買入は趣味の豊富な最も進歩したる文明の商戦なり</p>	<p>○京滅旭町二丁目</p>	<p>○放貸信託 低利抵當貸金信託あり附種 質、擔保案件の申込みあり</p>	<p>○賣買信託 土地家屋田地畑買入希望者あり 又各種貨物の依償あり</p>	<p>○小口質物 秘宝御宝類申士土庫所新設 所有家庭品に代償完全</p>	<p>○信託產業兼營仕候條倍 舊御引立被成下度希</p>
<p>○公責株式</p>	<p>○多田不動產信託所 所主 多田 次平</p>	<p>○京滅旭町二丁目</p>	<p>○京滅旭町二丁目</p>	<p>○京滅旭町二丁目</p>	<p>○京滅旭町二丁目</p>

混不板洋釘、垣用線、銅真中板、亞鉛板、各種銅真中線、並針、各種土丁、用具、一式、仙德火鉢、鑄物、火鉢、各種生花用具、一式、建築金物、一切、其他、鍋釜、鑄物、類、一切

和 洋
 金物商
 佐野彦藏商店
 英米烟草會社 京城代理店
 千代田相互保險會社 京城代理店
 京城本町式丁目

電話 二六三
 板橋區馬場二丁目

久保軍司令官は今七日午前十時参内
陛下に拜謁仰せ付けられ駐劄軍の状況
に付伏奏したり

り翌三十七年末には一躍して七百三十人となりたり以來年毎に増殖し四十二年より四十二年には夥しく激増し昨四

●**街路擴張の概算**
町通りの市區改正は早晚唱らるべき

民團議員 象選受票

▲最高二十一錢▲最低一錢▲止廿
國月銀▲止十七錢▲三月期十圓一
▲六日銷場一月止十四圓四十五錢▲二
月止七十九錢▲三月止九十一錢▲

行濟郡の賑はひ云はん方なし
 ▲大驅逐艦進水式 新造大驅逐艦「山風」は來る二十一日長崎に於て

●造林計畫成る 朝鮮に於ける造林計畫に關しては農商工部山林課に於て考究中なりしも如何せん

を六間に擴張すべく故に擴張道路を數に換算する時は千四百四十坪とな之を坪三百圓平均に買收するとする四十三萬二千圓を以て發行し得べき

一、一枚の用紙に認むべし議員連任の数は五人以内たるべき事

二、投票は **本社前の投票**

▲治外法權▼ 寺内總督の此
は殆んど事日乃して七草のれ粥が濟
と直ぐ仁川へ出掛けた、仁川の生命

海森の大吹雪 青森は数日來の大吹雪にて被害多し
仙臺の大暴風 四日來大暴風にて仙臺附近一帶損害多し

面に對する經營方針も立案したる由にして朝鮮の森林は愈二十年計畫を以て施行するに決し其具體的の經營方針

●秘制調査員辭退
百三十銀行の菅原大太郎三井物産會社の淺野長七兩氏は曩に古城民長より「國稅調査員」を委任せられたるが、

花月通
本町六丁目
洋服商
明治二丁目
大門口車馬場
中本町計店
灘山支店
日韓印刷會社
伊藤組出張所

雄士の御馳走になつては築港は乃公卿
 受けたと云つた様な顔をして居たも
 だ。併し今になつて見るに仁川はッ

の東端なるレックスカー島方面に軍港
工事^を施す事に決し秘密に着々準備
中なりしが此の事^を獨逸の探知する所
となり頗る恐愕し居れり云ふ該軍

の盛況を極めたり而して今其輸出入の差額を見るに僅かに二十万圓の輸入超過を以て終れりとて喜悅するものある

月末日迄の出生死亡調査を聞くに出
八百九十三人内男四百五十六、女四
三十七にして死亡六百〇六人内男三
十五、女二百九十一なりと云ふ

一、締切は明治四十四年一月二十日
す但し日々に於ける投票の結果は
々の紙上に於て公にすべし
一、總開票は締切の當日若し翌日と

於ても疑問だ、併し何はしろ子爵は
にして會欄子の歡心を得たかは
す例の秋田義と云ふ男だ▲秋田か
も下士だ必す秋田の棄て百つ

の礁脈にして中央水道口約十哩水深三十尋内外にしてレンスカ島の北方には良好なる鎭地あり又ロノラス

入八百萬圓ありたれば其移出超過額十
百萬圓を以て他外國との輸入超過額を
決済し得たる譯なり日鮮貿易の一般留

るらく予は如何なる人が當撰しようか
敢へて不關焉なり唯だ至誠公に奉じ
實なる議員諸君の翼賛を求め其職を

五百三十五票	中村 再浩
五百四十六票	山口 太兵衛
四百四十八票	中島 司馬之

の如き關係は官民の間に跡を絶つに到つた、商人が弄花を勉強して習畫を専業する要が無くなるに到つた、斯は

を劃し海陸相俟つて充分なる防禦手段を講せば敵軍優勢なるも容易に侵入する事能はざるべしと

勸誘費を要し爲に比較的多数の被保險者を集め得たるに拘らず保險料との收支勘定上多くは費用倒れの觀を呈し致

時代に非ずして謂はゞ夫れから夫れ、
因縁手廻を辿り以て暗中飛躍を爲
居るのみ而して諸方に機軸事務所の

四百五票
三百九十四票
關 繁太郎
菅原大太郎

圖を轉銀から引き出した、アー秋田
木村其の關係は恰かもドラ猫と二十
鼠の様なものだ▲六日夜寺内總督の
日記署名寺會は中々面白かつた、

三日發行の滿鐵社債は意外なる好人
氣にて六日締切を一日繰上げたる旨
倫敦より來電ありたり

兼て本邦保険料率は餘り底廉に過ぎな
少し其率を引上るも致て不可なる可
しとし三四月頃各會計共料金を引上げ

思はるゝ人が毎に得票し如何はしき
は忽ち消盡し去るも道理なり然れば
れも此豫撰に預るべく熱狂し古新聞

何の	銀
三百五十票	松永達二郎
三百二十七票	田村義二郎

云つて口を咄んだ。巨く「おの聲は誰の通る響か」と、斯は之れ總督が議院へ出席したときヤツたものだッだ▲サテ夫れからは皆さん一句づい

東拓横暴の陳情 全羅
南北疆及慶尙南道の農業家資産家等
運署して政友會幹部に對し東洋拓殖

調査の末品質搾油量等の大豆産の他に
比し願る有望なるを鑑認したれば昨夏
同會社社長は支配人を携へ實地に就き

を顧へし見るに小倉某を筆頭に三十
名を算せり今其閱覽者の系統を視ふ
驚く勿れ其内二十一名は小川勝平氏

三	二百八十五票	深水
二	二百八十五票	兼古
一	二百八十三票	曾我

政治哉」次が本社^{ほんしや}の去留^{きりゅう}で「梅干^{うめひし}は
い物^{もの}では無いけれど熱^{あつ}のときには結^{むす}
晶^{しょう}」次が山縣^{やまがた}ソウルプレスで「月

[illegible]

威望赫々たる寺内閣下
は來着せられた、
午前九時三十分、閣下の乗り玉ひしり

如く昨七日午前十一時より南山本願寺に於て舉行せり立合人として警務總長、和部員、南部警廳署員、古城民團長、和

三頁片附十一頁一層ノノトキ狂言
前狂言鬼一法眼三零卷一條大藏郷大坂
より御所迄狂言染久操新版歌祭文
野崎村の段にて尙九日の狂言は前狂言

て翌月には大坂幕府に上り居る。其時、
御注意なさらぬと爲めになりません
よ(小使)▲貴新聞仁川支局には投書面
は何處にありますか餘り見當らん様で

腎尿病者本自劑にて短時日に根治せり
同病者は往復葉書にて照會あれ詳報す
搖磨明石東本町 長井槌藏

金印特製福袋

日本東京市

電話

金

神印

度幸疊額候
田區通新石町十五番地
西村多吉商店
局二六八九
振替東京一五三九三

京城新報社

